

加盟社の管轄

今回の社長交代について、共同社内では政治部のクーデターが成功したと書かれており
ます。1997年から社長を出していない政治部が天下を取るため、前人事部長の不祥事
に乗じて現体制の転覆を図り、まんまと成功、大政奪還を實現したのだというのです。し
かし、政治部の仕業と一括りにされると困ります。政治部全体が関わったわけではありま
せんし、多くの良識ある政治部関係者は福山派と言われるごく一部の取り巻きの暴走を批
判し、眉をひそめています。

政治部の現場は、第二次安倍政権が繰り出すめまぐるしいばかりの内政、外交案件のカ
バー、7月21日の参議院選挙の準備でフル回転しており、社内抗争に加担する余裕はあ
りません。それどころか、福山政権の誕生によって真正人事が始まるのを恐れているとい
うのが本当のところでは。

自分たちの部の先輩が社長になるのだから喜ぶのが当然で、なんで批判するのか、不恩
識に思われるでしょうが、それはまともな人についての語で、福山氏の真の姿を知れば、
我々がなぜ社長就任に反対するのか、納得いただけると思います。

それではクーデターの真相を明らかにします。真実を伝えたい、その上で正しいご判断
をいただきたい、その一心で申し上げます。

5月23日の理事会の終了後、社内にはホッとした空気が漂いました。敵しい意見は出
たものの、辞任を求める声はなかったと伝えられたからです。ところが本社部長会が招集
され、まさかの辞任声明です。驚きました。何が起きたのか、聞くところによると、社長
は「週刊文春の記事で有力加盟社から批判の声が出ている、かつてに後任探しまでしてい
る」ことを知り、もう持たないと投げ出したのだと書かれています。

では、週刊文春を使ったのは誰か。それは、社内に巣くう福山派の面々です。それが誰
か、政治部の人間ならみんな知っています。大阪支社次長の櫻井伸弘、本社編集委員の柿
崎明二、編集局生活報道部長の石井達也です。彼らは、1998年8月に政治部長に就任
した福山氏の側近となり、部内を睥睨、抱擁をふるいました。

福山部長は、無能なくせにゴマすりだけは達者な橋詰を寵愛し、橋詰のライバルになり
そうな有能な記者を次々に排斥しました。現在の編集局長・吉田文和氏、編集局長・梅野
修氏、システム共有化推進本部事務局長・小野江公利氏らが代表的な存在で、彼らはパー
ジされたにもかかわらず、異力ではい上がり今の地位を得ています。追放されて不遇のま
まの人も多く、福山氏は2002年6月まで部長の座にありましたが、この4年近い期間
は政治部史上まれに見る暗黒時代であったと語り継がれています。

福山氏の復帰で、上記の一連りの取り巻きの暴走が跳梁跋扈するのか、と暗澹たる気持ち
にさせられています。福山氏の人格、識見、能力が社長にふさわしいのなら、何も言うこ
とはありません。そうでないから、かつての政治部内の悪政を今度は全社的に行う危険性
があるから、反対なのです。ご英断ください。もしこの願いを無視するなら、福山氏の政
治記者としての恥辱を暴露する突撃第2弾を用意しています。

政治部有志一團